

ユース世代制式艇種制定についてのお知らせ

(財)日本セーリング連盟理事会（1月21日夢の島ヨットハーバー会議室）に於いてユース世代制式艇種について下記が審議され基本方針について承認、可決されました事を皆さまに報告致します。

記

1. 基本方針

- ・ ユース世代制式艇種に 420、レーザーを採用する
- ・ JSAF は普及導入に向け支援する
- ・ 普及促進のため 420 クラス協会、レーザークラス協会と協力してレースを主催する
- ・ 指導者の育成を行う
- ・ 日本体育協会、高体連に対し競技艇種に制式艇種を採用するよう働きかける
- ・ 420 普及に向けて高校、都道府県連に経済支援を行う
- ・ 高体連、都道府県連が協力して、地域水域での新しい指導体制を構築する

※高体連、水域へのメッセージ

「ユース世代の制式艇種として 420、レーザーを採用する。各水域、高体連、都道府県連は、この方針の推進に向けて準備と協力をお願いします」

2. ロードマップ

- ・ ユース制式艇種の競技艇としての採用は 2015 年（平成 27 年）和歌山国体、インターハイからを目標とする
- ・ 高体連、国体委員会は基本方針に沿い、2015 年に向け、必要な準備を開始する。

3. 経済モデル

- ・ 制式艇種普及に向け、JSAF および都道府県連が協力して、約 2 億円を目標に資金を集める。
- ・ JSAF が日本 420 協会、日本レーザー協会と協力して、普及のためのレースを開催する。
- ・ JSAF は、普及のためのレースに 420 艇をそろえる。
- ・ 競技終了後、艇を都道府県連に一定の価格で払い下げる。
- ・ 各高校、各ジュニアヨットクラブは都道府県連と連携して、払い下げられた艇を有償または無償で使用する。あるいは、直接払い下げを受けてもよい。
- ・ 艇の調達は経済合理的なプロセスで行う
- ・ セールについては自己の費用とし、このモデルには除外する。
- ・ 現時点では高体連は、インターハイの開催を和歌山で定点開催するか、ブロック持ち回り開催にするか、検討中である。いずれの方法を取るかによって経済モデルを見直す必要がある
- ・ 当面、420 艇 100 艇の普及を念頭に、2015 年までに必要になる資金合計 60 百万円を計画化したい。

- ・ インターハイの開催方式が決まった時点で、再度経済モデルを見直す予定
- ・ なおレーザーの普及に必要な資金も、引き続き検討する

以上

上記審議に至るまでの背景、経緯の概要

近年U-18について大きな夢と希望を抱き国際大会へ出向く選手たちが増加の傾向にあります。一方で国内2大大会である国体艇種とインターハイ艇種が異なる状況が長く続き各水域の指導者より経済的負担増、経済的効率の悪化、練習効率の悪化を訴える声が聞こえるようになっていました。

高校ヨット部については資金不足、部員不足、指導者不足に端を発し存続が危ぶまれる部が多く存在しており活動停止に至った学校も数多く見受けられます。

このような現状を受けてJSAFは千葉国体開催時に選手、指導者に対しアンケート調査を行いその結果をもとに高校生世代の艇種について各方面で議論が起っていました。

今後日本のセーリングスポーツを支えていくであろう高校生世代に対して制式艇種を制定し国体とインターハイで採用すれば、水域の高校ヨット部、県連、ジュニアユースクラブは経済的、人的、時間的メリットを受ける事ができます。このことによって、若いセーラーは基本的なセーリングをじっくりと学び、世界に羽ばたくチャンスを得る事になり、ひいては国内セーリング人口の減少に歯止めをかけ、生涯スポーツとしてのセーリングを根付かせることに繋がると期待されます。

制式艇種を制定し国体、インターハイの種目を統一するには今が最大のチャンスではないか、機を逃せば将来のジュニアユース世代のセーリング環境は悪化の一途をたどってしまうのではないかという強い危機感を抱いています。

JSAFはユース制式艇種を制定すべくJSAF副会長 西岡一正を委員長とするユース制式艇種制定導入の為の実行委員会（以下:実行委員会）を発足させました。

実行委員会は高体連ヨット専門部、国体委員会と協力し公式、非公式の会合、会議を複数回重ねながら各水域において意見交換会、意見聴取を行い制式艇種制定に向けた問題点やアイデアの集約を行ってまいりました。その中で制式艇種制定にむけて以下の事が重要であるという結論に至りました。

- ・ JSAF自身が大きく舵を切り強いリーダーシップを持って取り組むこと
- ・ 国体とインターハイが同一の艇種を使用すること
- ・ 艇種はより安全、安価でセーリングの基礎を学ぶことができる艇であること
- ・ 子ども達が世界に羽ばたく夢をかなえることが出来るよう、全世界的に普及数の多い艇種(ユースワールド採用艇種)であること
- ・ 制式艇種制定により、各水域内での協力体制が確立すれば、艇保有の為のランニングコストは圧縮出来るが、最初の導入時にかかるコストについてはJSAFが何らかの経済的支援を行うこと
- ・ 各水域において、普及及び一貫指導のために、県連、高校ヨット部、ジュニアユースクラブの協力体制を築くこと
- ・ 各水域において指導者の育成を強力に推進すること
- ・ 制式艇種導入時期については国体、インターハイ同時期であること

以上の事をクリアにすべく実行委員会は会議会合を繰り返し理事会での審議に至りました。

JSAF 理事会での審議を受けて

その後速やかに実行委員会を開催し高体連ヨット専門部役員、国体委員会役員と会合し以下の方向で動く事を確認しています。

- ・ 国体少年少女種目について国際 420 級と国際レーザーラジアル級を導入する。
- ・ インターハイ艇種について国際 420 級を導入する
- ・ JSAF の経済的支援については普及期に於いて JSAF で艇を保有しチャーター制でのレースを行い使用後の JSAF 保有艇を各水域に安価に提供する
- ・ JSAF は指導者の育成について水域の各県連、高校ヨット部、ジュニアユースヨットクラブの指導者育成に対する支援体制を構築し水域ごとの拠点作りを行い、JSAF 保有艇の受け皿となる。
- ・ 高体連は 2015 年インターハイでの採用に向け具体的な計画に入る
- ・ 国体委員会は 2015 年国体での採用に向け具体的な計画に入る

今後、艇支援の方法やレースの実施方法等、より具体的な事項を決定して行く事になりますが、その都度関係団体の皆様へは情報をお伝えして参ります。質問がありましたら西岡副会長 (knishioka@abeam.com) までメールにて連絡ください。

この決定はジュニアユース世代（国体少年少女艇種、高校総体艇種、ジュニアユースヨットクラブ採用艇種）のみならず日本のセーリング界全体にとって非常に重要かつ重大な決定です。各水域の協力無くしては推進する事は出来ません。JSAF は理事会で審議されました事を受け責任を持ってこの事を推進して参ります。皆様方におきましては制式艇種の制定の本質的な意義をご理解の上ご協力、推進して頂くようよろしくお願い申し上げます。

平成 24 年 2 月 18 日

財団法人日本セーリング連盟
会長 河野 博文